

近畿大学大学院 学生員 ○伊藤 秀昭
近畿大学大学院 学生員 荒川 剛利
近畿大学理工学部 正会員 三星 昭宏
近畿大学理工学部 正会員 北川 博巳

1. はじめに

近年、高齢者の外出性は非常に高まっているが、その長期的変化はライフスタイルの変化と密接に結びついている。外出時において、鉄道は最もよく利用される交通手段のひとつであり、その端末交通手段の利用の変化にもライフスタイルの変化が表れていると思われる。本研究では、第1回(S45)から第3回(H2)までの京阪神圏パーソントリップ調査データを用いて、高齢者の交通手段に占める鉄道の構成比、それに伴う端末交通手段、発生時間帯、所要時間の時点間比較を行い、就業率、地区特性等の属性から鉄道利用におけるライフスタイルの変化を把握することを目的とした。

2. 方針

今回対象とした地域は、鉄道網の発達している大阪府下とし、ゾーン区分は大ゾーンを用いた。各ゾーンごとの高齢者の割合は、表-1に示すように大阪市が最も多く高齢化が進んでいる。就業率については、50歳から59歳では企業の定年が伸びたこともあり高まっているが、60歳以上では第1次産業従事者の減少により下がっている。また分析により、高齢者のトリップ発生量は増えていることがわかった。そこで、高齢者の自宅からの外出目的について調べてみると、図-1のように全体の傾向として非日常的な自由目的（以下自由2目的）が増えている。これより高齢者が娯楽やレクリエーションなど積極的に参加していることがわかる。また高齢者の就業率の低下、免許保有率の上昇、交通網の整備が年々進んでいることも理由と考えられる。

表-1 大ゾーン別高齢者比（夜間人口）

	第1回(S45)			第2回(S55)			第3回(H2)		
	60～69	70～	60～	60～69	70～	計	60～69	70～	計
北大阪	5.46%	2.86%	8.32%	5.31%	4.13%	9.44%	7.67%	5.61%	13.29%
東大阪	5.28%	2.67%	7.95%	5.67%	4.05%	9.72%	7.67%	5.61%	13.28%
南大阪	6.01%	3.27%	9.28%	5.86%	4.43%	10.29%	8.16%	6.68%	14.84%
泉州	6.05%	3.30%	9.35%	5.81%	4.48%	10.29%	8.48%	6.35%	14.83%
大阪市	7.23%	4.05%	11.28%	7.93%	6.38%	14.30%	10.35%	8.15%	18.50%
計	6.25%	3.39%	9.64%	6.36%	4.91%	11.27%	8.67%	6.60%	15.27%

3. 代表交通手段の変化

2. で述べたように高齢者の自由2目的が増加傾向にあることがわかった。このような高齢者のライフスタイルの変化が、鉄道利用に関係しているのを見た。図-2に示すように自由目的2による鉄道利用は減少傾向にあり、代わって自動車利用が増加している。ただし、大阪市だけは鉄道利用の減少に對

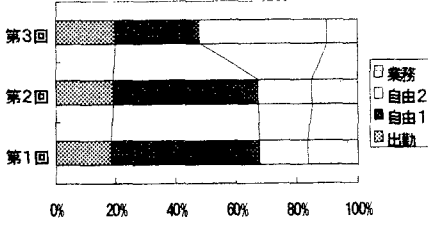


図-1 高齢者の外出目的構成比の変化

Hideaki Ito, Taketosi Arakawa, Akihiro Mihosi, Hiroshi Kitagawa

して、徒歩・自転車利用が増加している。外出率・外出目的は、他地域と違わない上、鉄道網は最も発達している地域ということから、目的施設が自宅から近くに増えたためと思われる。

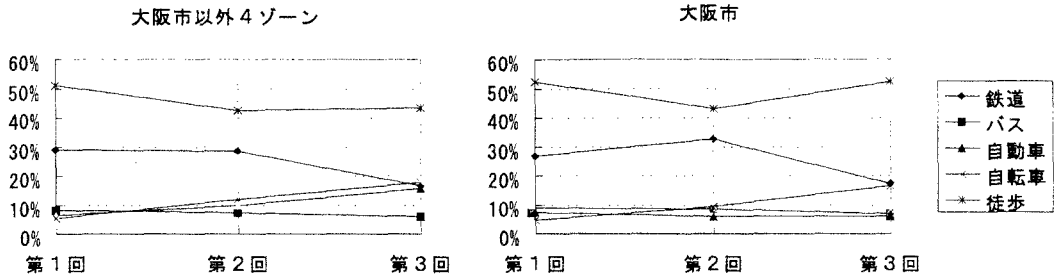


図-2 自由2目的のTRIPの代表交通手段

4. 鉄道端末交通の変化

鉄道端末交通手段の変化は、バス利用は減少傾向にあり代わって自転車が増加していることがわかっているが、高齢者も非高齢者ほどではないが増加している。(図-3)。それに対して徒歩は、この20年間約8割で安定している。そこで徒歩に着目し、駅までの所要時間を見た(図-4)。時点間・ゾーン間で大きな違いはなく、どの年齢層でもピークは6～10分となっているが、高齢者は10分以上かけて歩く人が比較的多い。また、自宅からの鉄道トリップ発生時刻を見ても高齢者だけが、ピーク時間が遅くなっている(表-2)。自由2目的トリップが増えていることから、高齢者は仕事等に時間を制約されることなく自由行動する時間が増加していることがわかる。

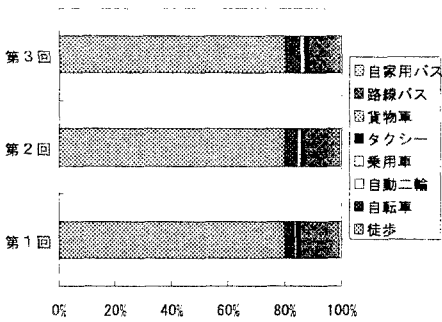


図-3 鉄道端末交通手段

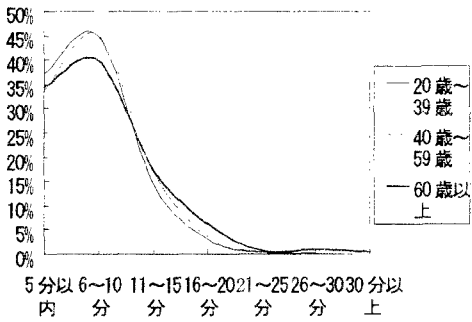


図-4 駅までの所要時間

5. まとめ

今回の分析より、高齢者の外出目的は大きく変化していることがわかったが、それに伴う鉄道利用は減少傾向にある。また駅までの交通手段として、非高齢者と同様、バスの利用は減少し、自転車に移り変わっている。徒歩で駅へ向かう人の割合が時点間で変化がない上、所要時間も変わっていないことから考えると単に元気な高齢者が増えているとは考えにくい。ただ、第3回調査は平成2年に行われており、現在もさらにこの変化が続いていると考えられる。

表-2 鉄道TRIP発生ピーク時刻

	第1回	第2回	第3回
60歳以上	7時台	9時台	10時台
40～59歳	7時台	7時台	7時台
20～39歳	7時台	7時台	7時台